

目的 健全な家庭生活の維持と家族の幸福追求のため、家庭生活に於ては、最低限、次の8項目は不可欠な要素になると思われる。それは、家族関係と健康と食生活と衣生活と住生活と環境と経済と教育とであり、家庭生活の健全度を測定するに当り、これ等の8項目からアプローチして診断することにした。診断結果から、特に、今回は各項目間の関係・相関について考察した。

方法 上記の8項目を「家庭生活診断テスト」に織り込み、各項目に10の質問を設けて実態調査を実施した。期間は昭和54年6月で、調査場所は新潟と西宮と鳥取と広島と松山と福岡の6地域から718世帯の主婦を対象にした。各質問の回答を2点と1点と0点に三段階に求め各項目毎に得点を集計し、これをパーセントイルに換算して評価とした。

結果 先づ項目毎に、50PR以上と以下の上位群と下位群に分け、それぞれの群別に各項目の平均PR値を比較した。例えば「家族」の項目の上位群と下位群を比較すると、顕著な差は「教育」の項目の20PRであり、次に、健康や食、衣、住生活や経済では11～14PRの差があり、環境のみ5PRの小差であった。

次に、調査内容の8項目のそれぞれの得点合計から各項目の相関を求めたところ、相関係数が0.4のかなり相関ありと判断するものには教育と家族、教育と食生活、教育と衣生活、衣生活と食生活があり、0.3の相関係数は教育と住生活、住生活と食生活、住生活と衣生活がある。相関係数0.2以上をまとめて、ソシオグラムに図示すると項目間の関係の多少が判明でき、家庭生活の複雑な相互作用の一分析を試みる事ができたと思われる。